

南の風日本男子W杯特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続きです。

② 3P シュートの確率を上げること

まず打てる状況をつくることです。ゲームを観て感じたのは、外のパス回しから3Pを狙う場面が多かったことです。当然のことですが外回りのパスに対しては、ディフェンスは対応しやすいですし、ノーマークになる確率は低くなります。

やはりポストプレイやドライブでペイントを突いて、ディフェンスを収縮させてキックアウトから3Pを狙うか、さらにエキストラパスで空いた味方に打たせるかすべきです。

そして日本代表のガード陣はもちろん、3番、4番の選手も3Pの確率を高めなくてはなりません。チェコに限らず、世界の強豪チームは2m級の選手がどんどん3Pを決めています。身長や身体大きさが劣る日本にとって、3Pシュートの決定率を上げることができなければ、世界で戦うことはできないと思います。

③ 正確な速いパスを目指すこと

前号でも触れましたが、チェコ戦ではパスミスからのターンオーバーが目立ちました。釈迦に説法を承知で言わせてもらいます。パスの速さとは、ボールが動くスピードではありません。「パスを出そうと判断してから相手に届くまでの速さ」です。

身長があり手足も長い選手を相手にパスを出す場合（出所のDefとレシーバーのDef）、瞬時の判断と素早い動作が要求されます。両手パスは、正確性はありますが、トルソーから出すことがほとんどなので出所をカットされ易く、また到達まで時間が掛かります。男子日本代表には、正確で速いパスに磨きをかけてほしいと思います。

《ディフェンス》

① ボールマンディフェンスを強化する

チェコ戦を観ていて気になったのは、ボールマンディフェンスの弱さです。チェコの選手のハードコンタクトドライブに負けて、ウェルカムスタンス（足を引いてしまう）になってしまう場面がたくさんありました。4Pに相手のドライブに対して、渡邊 雄太選手が見せた身体を張ったディフェンスが目立ったようではいけません。当然、ドライブに対するコンタクト練習はしているはずですから、実戦でやり切ってほしいです。

② オフボールマンディフェンスは、相手の行きたい場所に行かせない

サイズのある選手や相手のエースに対しては、動きだしからコンタクトチェックして、少しでもフラストレーションを溜めさせるようにします。なんとなくディフェンスしていることが目立ちました。但し、手を使ったディフェンスは要注意です。厳しいですが足と身体で相手を封じ込めるようにしたいものです。

残念ながらアメリカにも敗れ、予選敗退が決まり順位決定リーグに回りました。何はともあれまずは1勝を挙げ、そして死に物狂いで戦い、この経験を2020の東京五輪につなげてほしいものです。